

# 下野市立南河内第二中学校

## 1 学校課題

### 各種調査から見える課題改善を目指した言語活動の推進

#### (1) 研究主題設定の理由

昨年度、本校では「各種調査を生かした生徒の意欲を高める授業改善と評価の工夫～伝え合い、認め合い、協同で課題の解決を図る言語活動の推進～」という課題のもと、「とちぎっ子学習状況調査」や「全国学力状況調査」の結果を分析し、そこから生徒の育てたい力や言語活動を通して実践できる授業改善のポイントについて各教科・領域で話し合い、生徒の意欲を高められるよう工夫しながら授業実践を行ってきた。昨年度の研究の成果は、次の通りである。

- ① 各種調査結果から、各教科で生徒たちの意欲に即した学習課題を設定することにより、思考力、表現力が高まり、より質の高い言語活動につながる。
- ② グループ活動を授業に取り入れることにより、生徒同士が互いに励まし合い、教え合いながら安心して活動し、共に学ぶ楽しさや達成感を味わうことができる。

これらの成果から、分析結果をもとに教師側が指導法を工夫し、目標や授業のビジョンをもって授業に臨むことで、思考力、表現力の育成につながる質の高い言語活動を展開することができるということが分かった。また、様々な言語活動を授業に取り入れることにより、生徒が他者と学ぶ楽しさや達成感を味わうことができ、更には生徒各自の意欲の向上につながるということが明らかとなった。

今年度は、目指す生徒像を教科で設定し、目標を達成するにはどのような言語活動が有効か、またどうしたら生徒の自信や自己有用感を高めるより質の高い言語活動が展開できるかなどについて追究していく。そして、それを確かめるためには「振り返り」を行う必要があるのではないかという考えのもと、この研究主題を設定した。

## 2 研究計画

#### (1) 学校課題の研究によって目指す生徒像

自ら学習を振り返り、より高い目標に向かって、意欲的に学ぶ生徒

#### (2) 研究目的・内容

学校課題に基づいて、主に以下の2点について、実践や検証をすることで、今後の学習指導の向上に資することを目的とする。

- ① 各調査結果から見える各教科における目指す生徒像の設定
- ② 振り返りを生かした言語活動の質の向上

#### (3) 研究方法

- ① 様々な教育調査結果から各教科ごとに目指す生徒像の設定を行う。
- ② 生徒像に近づけるためにはどんな言語活動が有効かについて教科で話し合い、授業実践していく。
- ③ 授業における振り返りを通して生徒の実態を分析し、言語活動の質の向上に努める。

#### (4) 研究計画

- ① 4月 各教科部会で研究計画の作成・研究のポイント・目指す生徒像の設定
- ② 6月 生徒意識調査実施
- ③ 7月 とちぎっ子学習状況調査及び教研式標準学力検査の結果分析・保護者説明  
各教科で評価計画及び指導計画について検討
- ④ 9月 全国学力状況調査の分析・保護者説明
- ⑤ 『言語活動』に関する研究授業・授業研究会の実施（9月から12月）
- ⑥ 1月 教科部会で研究報告の作成・生徒意識調査実施  
\*前期（6月）・後期（12月）に道徳を語る会を実施

### 3 研究内容

#### (1) 各種調査を生かした授業改善としての具体例について

各教科の授業実践から、多くの知見を得ることができた。以下にその一部を紹介する。

- |   |
|---|
| 【国語】話し合い活動に苦手意識をもち、かつ話し合いでの深化・拡充ができていないと感じている生徒が比較的多いという調査結果を受け、小グループでの話し合いの場を数多く設定し、発表になれさせ自信につながったり、教師が積極的にアドバイスをすることで話し合いが深まるよう工夫。また、記述式の解答を苦手としているという分析結果から、『書く』単元を取り扱う際の丁寧な指導、および発展学習として課題学習を実施。 |
| 【社会】資料に基づいて読み取ったことや考えたことを分かりやすく表現する力が弱いという調査結果から、学習課題の提示や話し合いの形態の工夫および「なぜ」という疑問から考えざるを得ない授業を展開。   |
| 【数学】各種調査結果の分析から、普段の生活の中では活用しない、決まりきった考え方で数学の問題を解こうとしている実態が分かった。そのため、身近にある題材を利用した学習課題の設定を意識し、多様な考え方が出せるよう既習事項をさまざまな場面で復習し、多様な意見を互いに共有・発表できるよう授業を工夫。  |
| 【理科】知識を活用する意識が低いという分析結果を受け、実験の考察を生かして、実際に起こる現象のしくみにつなげられるよう導入を工夫し授業を実践。   |
| 【音楽】音程感覚やリズム感を強化するため、発声練習や階名唱を用いた音取りを実施。また、パートやグループ毎に言葉と音楽の関わりについて追究させ、表現に生かすよう授業を工夫。   |
| 【美術】とちぎっ子学習調査から、美術が好きだが、美術が将来のために大切だと考えている生徒が少ないという生徒の実態が明らかになった。そのため、生涯教育の一環として鑑賞教育の充実を図り、将来にわたり美術を学習した意義を生徒に認識させられるよう授業を工夫。   |
| 【保健体育】「難しいことでも失敗を恐れず挑戦する」生徒の割合が低いという調査結果を受け、種目に応じて、ペア学習やグループ学習を取り入れ、友人からのアドバイスや励ましのことばから挑戦への第一歩を踏み出すきっかけになるよう授業を工夫。   |
| 【技術・家庭】とちぎっ子学習状況調査で、技術・家庭科が好きで、将来役に立つ教科であると考えている生徒が多いことが分かった。実際の生活の中で活用できる技術を身につけるため、基本的な道具の使用方法を習得させるよう授業を工夫。また、創作意欲を高め、達成感が味わえるよう授業で作成した作品(指人形)を乳幼児との関わりの中で活用する場を設定。                                |
| 【英語】各種調査結果から、人前で発表することに苦手意識を持ち、難しい問題を避けようとする生徒の実態が明らかになった。そのため、ICTを生かしたインタラクションの実践や少人数による反復練習から全体での言語活動につながる授業展開になるよう授業を工夫。   |

#### (2) 言語活動の質の向上に向けた振り返りの工夫について

- ・書く活動や話し合い活動中心の授業では、プリントによる振り返りを実施。【国語】
- ・毎時間授業毎に自己評価表やワークシートで「コメント分析」を実施。【社会】
- ・授業中の生徒の発言やつぶやきを拾い、生徒に伝えることでフィードバック【数学】
- ・毎時間実験・観察等も含めた授業全体の見取り部分を評価し、実験に使用したプリントに自己評価欄を設け実施。【理科】
- ・授業の中で自己評価と「ひとこと感想」による振り返りを実施。【音楽】
- ・ワークシートと自己評価の実施。【美術】
- ・毎時間授業終了時に学習カードにて自己評価を実施。【保健体育】
- ・活動毎にプリント等で振り返りを実施。【技術・家庭】
- ・教師と生徒のねらいの共有化を図るため言語活動時の評価の提示方法を工夫。【英語】

### 4 研究の成果と今後の課題

#### (1) 研究の成果

各種調査結果から課題改善を図る言語活動の実践に努めてきたが、どの教科においてもまず生徒一人一人にしっかりとした考え・意見を持たせることが大切であり、話し合いにおいては、司会の果たす役割が大変大きいということが分かった。また、言語活動を行う上で、教師が教材を見極め、しっかりと教材研究を行わねばならないこと、さらに導入を工夫し、言語活動の方向性や内容を的確に示さなければ発展していかないということが明らかになった。

「振り返り」については、ワークシートと自己評価を一緒に提示することにより、作品の完成や授業のねらいまでのプロセスが明確になり、生徒は自分を振り返りながら目標に向かって意欲的に活動できるということが分かった。また、生徒の振り返りは、生徒だけでなく教師自身へのフィードバックにもなるため、結果を分析し、それをその後の授業改善に生かしていくことが授業の向上、そして課題改善につながるということも分かった。

#### (2) 今後の課題

研究の結果から、言語活動を進める上で、多様な考え方が引き出せる課題の設定、司会の仕方を含めた話し合い方法の指導及び学習形態の工夫が必要であると思われる。また、年間指導計画の中に学習課題を追記し、3年間の見通しをもって計画的に指導に当たれるようにすることが必要だと感じた。さらに、話し合いの中で取り上げられた内容をその後の授業にどう活用していくかが教師の課題である。